

知覚と意識の階梯

(次元・波動)

「靈魂と繋がる私」即ち鏡である私達の意識状態の段階(セルフエピグノーシスの段階)

※通常私達「靈魂と繋がる私」は、脳と結合し一体化しているので、脳と潜在意識の記憶の反応しか知覚していません。そして私達の思考は脳の限定された知覚を基底としているため、この限定された思考や知覚以外を知ることは出来ないです。

私達「靈魂と繋がる私」は源泉から起こっている肉体や思考や行為や出来事、そして、それに対する反応である自我(記憶からの反応)も根源・源泉から起こっているのにその自我(神の演技)である「自分が思考し、自分が行為していると錯覚している自我」、「カルマを持つ自我」を自分自身だと錯覚してしまっています。そしてその結果、カルマを背負った自我と共に生きています。そして私達「靈魂と繋がる私」はその根源から起こっている行為や思考や感情、そしてそれらに反応している記憶(自我・神の演技)と完全に一体化してしまい、自分は自我であり、自分が思考して、自分が行為していると錯覚しています。思考し行為しているのは源泉であり、それを「自分が行為している」と錯覚しているのは「神の演技であり・カルマによってプログラムされた自我」であって魂からの私ではありません。この自分が思考し、行為していると思っている自我のことを「私だと錯覚している私」とは「靈魂と繋がる私」なのです。その「神の演技である自我」と同一化した「靈魂と繋がる私」は「自分が思考し行為しているのだ」との自我が持つ錯覚のゆえにカルマに縛られ自他の分離の知覚以外を知ることが出来なくなっています。これ以上の高次の知覚、それは超感覚や超意識の事ですが、その高次知覚は私達のサイコノエティック体が再形成されていない限りはその高次の知覚は認識出来ません。覚醒していない私達の文化や科学は三つの脳及び潜在意識の記憶(受動思考)に限定されてしまっています。私達のサイコノエティック体が再形成されチャクラが活性化していない限りは私達は「自分が思考し行為しているとの自我」との同一視から逃れることは出来ません。

「靈魂と繋がる私」の意識進化の段階(四つの私)

